



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジ・イラン：二国間外相会談の実現

21日、サウジアラビアのサウド・ファイサル外相とイランのザリーフ外相は、国連総会に出席するため訪問中のニューヨークで二国間会談を実施した。二国間の外相会合は、昨年8月にロウハーニー政権が発足して以来、初となる。

会合後、サウド・ファイサル外相は、「我々は（「イスラーム国」の台頭という）危機に遭遇する機会を捉え、これを適切に利用し、過去の失敗を繰り返すことを避けることができると信じている。また、我々はこの非常にセンシティブな危機に対抗するための手段について何らかの合意に達することもできよう」と述べた。また、「イランとサウジアラビアは地域において影響力を有する国家であり、両国が協力することは地域と国際社会の平和と安定の確立にとって大きな影響を与えよう」と述べた。

他方、ザリーフ外相は、「この会合が二国間関係の新たな章の1ページとなると信じている」と述べ、この新たな章が「実り豊かなものとなり、地域と世界の平和と安全の確立を含め、二国間の利益だけでなく、全てのイスラーム国の利益を保護するものとなることを望む」とした。

評価

今回の外相会談の実現により、ロウハーニー政権発足以降、待望されていたサウジ・イラン間の関係改善にとって、大きな一歩が踏み出されることになった（ここ数カ月の二国間関係の経緯については「[サウジアラビア：イラン外相の招待](#)」『中東かわら版』No. 25（2014年5月14日）、「[サウジアラビア：イラン外相をOICに招待するも日程合わず](#)」『中東かわら版』No. 41（2014年6月3日）、「[サウジアラビア：イラク情勢への対応・米国との協力の表明](#)」『中東かわら版』No. 67（2014年6月19日）、「[サウジアラビア・イラン：イラン外務次官のサウジ訪問](#)」『中東かわら版』No. 123（2014年8月27日）などを参照）。

これまで、どちらの外相が相手国を訪問するのかについて、様々な報道が流れていたが、国連総会という中立的な場で二国間会談が実現したことは、お互いの体面を保つことができる双方にとって良い妥協点であった。サウジとイランの接近は、「イスラーム国」という両者に共通の脅威が台頭したことで強まった。しかしながら、共通の敵の存在ゆえに接近した関係は、この脅威が低減した場合、再度離れていく可能性を有している。両国が地域における様々な問題においてライバル関係にあるという構造は変わっておらず、現在進行中のイランの核開発に関する協議の推移を含め、両国が全面的な関係改善に至ると結論付けるのは早計だろう。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799